

平成28年度
自己評価

川村幼稚園
川村小学校
川村中学校・川村高等学校

平成28年度 自己評価

川村幼稚園

1 学校教育目標

- 豊かな「こころ」
- のびやかな「からだ」
- 工夫する「あたま」

2 本年度の重点

- (1) 集団の中で伸びやかに
- (2) 始めの一歩を緩やかに
- (3) 行事を通して健やかに

3 評価表

*評価基準 (A : 十分達成している B : おおむね達成している C : やや不十分である D : 不十分である)

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 幼稚園運営に関するもの	①組織運営	・学園経営理念、方針 ・職務分掌組織 ・職員会議等の運営	B	成果：学園経営計画が示され、目標が明確になり、指導計画に反映させることが容易となった。 課題：少数ではあるが、組織としての機能を保つ職務分掌していく。
	②研究・研修	・研究組織、計画 ・保育改善への取組 ・研修会への参加	B	成果：夏休みの個人研修参加により、自己研鑽に励むことができた。 課題：職員間情報共通化のため、話し合いの充実を図る。
	③保健・安全管理	・保健計画、安全計画 ・安全点検 ・緊急時の対応	B	成果：定期的な安全点検の実施が日常化してきた。 課題：緊急時等の対応マニュアルの見直しと、様々な角度からの訓練を行うよう設定していく。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理保護 ・施設設備の管理 ・施設の有効活用	A	成果：個人情報の管理について、意識が高まった。 課題：遊具等、施設設備の安全な活用ができる環境づくりに努めていく。
	⑤一貫教育	・保育公開の実施 ・幼稚園情報の発信 ・幼小中高の連携	B	成果：小学校との連携が拡がり、音楽の授業体験など、充実した取り組みができた。 課題：小中高の連携の更なる充実に向け、話し合う機会を増加する。
II 保育活動に関するもの	⑥保育目標・保育計画	・保育目標の周知 ・保育計画の作成 ・保育活動の評価	B	成果：学年・学級の児童の実態に基づく指導ができた。（新規契約による体操教室の充実） 課題：基本的生活習慣の日々徹底に努めていく。
	⑦保育指導	・指導計画の立案 ・指導方法の工夫改善 ・評価、評定の工夫	B	成果：個々の研修が保育改善に活かされた。 課題：評価については更なる相互理解を深め、工夫・改善を進める。

III その他	⑧三位一体の教育	・保護者との連携 ・幼児理解 ・コミュニケーション	A	成果：保護者との連絡（送迎の時の利用や電話等）丁寧に、親身になって応対できた。 課題：幼児理解を深め、保護者からの信頼をより深めていく。
	⑨防災教育	・指導計画の立案 ・避難訓練等の実践 ・伝達システム	B	成果：訓練後の反省等が生かされ、安全への意識を高め、様々な角度からの取り組みを行った。 課題：避難訓練時の避難経路について再検討し、より安全・安心を確保する。
	⑩給食指導等	・安心安全への対応 ・アレルギー対策 ・環境衛生の管理	A	成果：アレルギー対策は、学園の指針に基づき、確実に対応できた。 課題：安全・安心な給食指導の充実に向けて、更なる工夫・改善に努めていく。
	⑪保育後の活動等	・預り保育の運営 ・A S の運営	B	成果：多くの園児が、16時までの諸活動に楽しく取り組むことができた。 課題：保護者のニーズに応えられるよう、充実した活動を目指していく。

4 総合評価

- *年間保育計画に基づき、月間目標を柱とした学年・学級経営が推進され、職員の共通理解のもと、各学級で明確な目標に向かい日々の保育活動を推進することができた。
- *特色ある教育活動として、たくさんの行事を通して充実した年齢に即した活動を展開することができ、生き生きとした幼児の主体的な姿が見られた。

5 来年度の改善策

- *園児一人ひとりの成長の度合いを見極め、個々の成長を助長するような声掛けをはじめとする保育展開の向上を目指していく。
- *保護者の求めている保育形態を追求し、更なる保育の充実、質の向上にあわせて、預かり保育・AS運営に力を注ぎ、保育者の信頼を高めるようにしていく。また、平成29年度から開始する、「ウィズダムアカデミー目白校」との連携を確実なものとして、保護者からの信頼に応えていく。

平成28年度 自己評価

川村小学校

1 学校教育目標

生き生きした子（やさしい心）

健やかな体（じょうぶな体）

自ら学び自ら考える子（かしこい頭）

2 本年度の重点

(1) 一人ひとりが輝く学校

(2) 笑顔が光る学校

(3) やさしい心を育む学校

(4) 自ら学ぶ力を伸ばす学校

3 評価表

*評価基準（A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である）

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営理念、方針 ・校務分掌組織 ・職員会議等の運営	B	成果：学校経営計画が示され、目標が明確になり、実践につながるようになった。 課題：今後も組織が活きて働く校務分掌の改善をしていく。
	②研究・研修	・研究組織、計画 ・授業改善への取組 ・研究会への参加	B	成果：教科等の各部会の話し合いが、円滑になった。 課題：研究授業の実施回数を増すよう全体の活動を見直す。
	③保健・安全管理	・保健計画、安全計画 ・安全点検 ・緊急時の対応	A	成果：定期的な安全点検の実施により危険箇所の指摘（修理伝票）が増加した。 課題：緊急時等の対応については、様々な取り組みがなされたが、引き続き力を注ぐ必要がある。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理保護 ・施設設備の管理 ・施設の有効活用	B	成果：個人情報の管理についての意識が、さらに向上した。 課題：情報機器の活用ができる環境づくりと施設の有効活用をしていく。
	⑤一貫教育	・学校公開の実施 ・学校情報の発信 ・小中高の連携	B	成果：小中高の連携が拡がり、英語科の取り組みなどの充実がなされた。 課題：小中高の連携の更なる充実に向け、内部進学者の増加を図りたい。
II 教育活動に関するもの	⑥教育目標・教育計画	・教育目標の周知 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価	B	成果：学校・学年・学級経営プログラムに基づく指導を強化した。 課題：基本的生活習慣（挨拶、廊下歩行等）の徹底に至っていない。
	⑦教科指導	・指導計画の立案 ・指導方法の工夫改善 ・評価、評定の工夫	B	成果：研究授業及び東京都私立初等学校協会の研修が授業改善に活かされた。 課題：評価（通知表を含む）について、これからも工夫・改善に努めていく。

II 教育活動に関するもの	⑧道徳・特別活動	・指導計画の立案 ・授業の充実 ・児童会活動	A	成果：月間目標を核として、講話等の関連した指導ができた。 課題：児童が主体的に活動できる児童会活動になるよう、骨組みを作っていく。
	⑨蓼科学習	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫改善	A	成果：各学年に応じた体験重視の特色ある教育活動の見直しをした。 課題：雨天時等、屋内でのプログラムの充実とより安全な活動の選別が求められる。
	⑩児童指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対応 ・教育相談	B	成果：毎週実施される学年会での潤滑な情報交換が、有効活用されている。 課題：「学校のきまり」にそって、共通理解のもと指導を進めていく。
III その他	⑪三位一体教育	・保護者との連携 ・児童理解 ・コミュニケーション	B	成果：保護者との連絡（連絡帳や電話等）が丁寧に行われた。 課題：児童理解を深め、不登校のない学校生活を構築する。
	⑫英語教育	・指導計画の立案 ・各学年の実践 ・英検対策講座	A	成果：英検受験も励みとなり、英語活動への理解と関心が深まった。 課題：英語検定へのチャレンジ層を厚くしたい。
	⑬防災教育	・指導計画の立案 ・避難訓練等の実践 ・伝達システム	B	成果：訓練後の反省等が生かされ、安全に実施できた。 課題：避難訓練時の避難経路については、再検討し万全な体制を作る。
	⑭会食指導等	・安心安全への対応 ・アレルギー対策 ・環境衛生の管理	A	成果：アレルギー対策は、家庭との協力を得て確実に対応できた。 課題：会食指導の充実に向けて、教室での指導を統一し、更なる工夫・改善に努めていく。
	⑮鶴友会活動等	・クラブ活動の運営 ・放課後活動の運営 ・A S の運営	B	成果：多くの児童が、諸活動に楽しく取り組むことができた。 課題：限られた時間の中で、充実した活動となるよう精選していく。

4 総合評価（学校関係者評価を含む）

- * 学校経営計画に基づく指導により、月間目標を柱とした学年・学級経営が推進され、各学級で明確な目標に向かって、それぞれの教員が、児童のための教育活動を推進することができた。
- * 特色ある教育活動として、各学年での蓼科学習・英語教育・水泳教育・情報教育が充実し、児童の主体的活動を促す要素が整った。

5 来年度の改善策

- * 「学校のきまり」として、①学習習慣の確立 ②基本的生活習慣の確立に向けてのきまりの徹底指導を日々重ね、さらに落ち着いた学校生活が送れるようにしていく。
- * 一人ひとりの笑顔が輝くよう、担任を中心に学年や教科担当と連携する中で児童理解をより一層深め、楽しい学校生活と保護者の信頼を不動のものとする。
- * 放課後活動充実のため、平成29年度から開始する「ウィズダムアカデミー日白校」との連携に対する理解と利用を推進し、安全な放課後の時間を提供していく。

平成28年度 自己評価

川村中学校・川村高等学校

1 学校教育目標

豊かな感性と品格

自覚と責任

優しさと思いやり

2 本年度の重点目標

- (1) 知・徳・体の調和の取れた教育の実践
- (2) 三位一体の教育を実践
- (3) 中高6年間を見通した教育の実践
- (4) 一人ひとりを生かす教育の実践
- (5) 進路を見据えた教育の実践

3 評価表

*評価基準 (A : 十分達成している B : おおむね達成している C : やや不十分である D : 不十分である)

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営理念、方針 ・校務分掌組織 ・職員会議等の運営	A	成果：学校経営計画に基づき、共通認識を持つて運営にあたることができた。 課題：校務分掌等における偏りの是正を図っていく。
	②研究・研修	・研究組織、計画 ・授業改善への取り組み ・研究会への参加	B	成果：研究授業および研修会への参加により、研鑽を積むことができた。 課題：研修会への参加が教科によりできない状況もあった。
	③保健・健康管理	・保健、安全計画 ・安全点検 ・緊急時の対応	A	成果：計画性を持った保健指導が成された。 課題：緊急時の対応についておおむね良好であったが、今後も引き続き様々な状況を想定して見直しを図っていく。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理保護 ・施設設備の管理 ・施設の有効活用	B	成果：個人情報の管理については、おおむね良好であった。管理および行き届いた施設管理ができた。 課題：施設管理については、引き続き見直しと改善の必要がある。
	⑤一貫教育	・学校公開の実施 ・学校情報の発信 ・小中高の連携	B	成果：公開授業や行事を通して、情報の発信をすることができた。 課題：幼小中高の一貫校であるにも拘らず、他校へ進学していく児童、生徒の増加について原因の分析と連携について再検討をする。
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・教育目標の周知 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価	B	成果：学校、学年、学級プログラムに基づき、教員一人ひとりが意識をして取り組んだ。 課題：生徒には自覚を促がすよう指導する。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・指導方法の工夫改善 ・評価、評定の工夫	B	成果：研究授業を授業改善に活かすことができた。 課題：評価方法について、さらに検討・改善をしていく。

II 教育活動に関するもの	③道徳・特別活動	・指導計画の立案 ・授業の充実 ・生徒会活動	B	成果：生徒会規約の改編に伴い主体的な活動を実践していくことができた。 課題：生徒会役員以外の生徒も中心となって活動ができる環境を更に増やしていく。
	④総合的な時間の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫改善	A	成果：学年毎のテーマに基づき、生徒の豊かな発想を活かした指導ができた。 課題：中3と高1のキャリアガイダンスは、連続性を持たせるカリキュラムの工夫をしていく。
	⑤生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対応 ・教育相談	B	成果：学年会を通して、生徒一人ひとりへの共通理解と指導ができた。 課題：生徒の問題に対する共通理解をより一層図るよう努める。
III その他	①三位一体の教育	・保護者との連携 ・生徒理解 ・コミュニケーション	B	成果：保護者との連携を図りながら、生徒一人ひとりへの指導ができた。 課題：指導に対する保護者への理解を図り、啓蒙していく。
	②キャリア教育	・指導計画の立案 ・中学3年生の実践 ・高校1年生の実践	A	成果：中3と高1のそれぞれの学年では、充実したキャリア教育を実践することができた。 課題：働く女性を意識した職場見学などを今後は企画していく。
	③防災教育	・指導計画の立案 ・避難訓練等の実践 ・伝達システム	A	成果：様々な想定に基づく訓練を実施することができた。 課題：伝達システムが確立できるように工夫をする。
	④学校給食（会食）	・安全安心への対応 ・アレルギー対策 ・環境衛生の管理	A	成果：アレルギー対応が丁寧にかつ正確に行われた。 課題：会食指導への更なる充実を図っていく。
	⑤鶴友会活動（部活動）	・クラブ活動の運営 ・クラブ活動の指導 ・クラブ合宿	B	成果：充実したクラブ活動の実施が行なわれていた。 課題：クラブ活動を統合し、教員の負担を軽減していく。
	⑥鶴友会活動（諸係）	・諸係の運営 ・活動内容の充実 ・活動内容の改善	B	課題：係活動の見直しを図り、生徒が主体的に関わるよう検討する。

4 総合評価

- * おおむね各学年・学級目標に基づく指導ができた。
- * 健康管理の徹底が行き届き、感染症の流行宣言が発令された折にも、学級閉鎖等の措置をすることなく、健康的な生活を送ることができた。
- * 生徒の安心・安全な学校生活を意識した取り組みが、教職員の共通理解のもと実践することができた。

5 来年度への改善策

- * 指導要領の改訂に伴う研修と研鑽を積極的に行う。
- * 小中高の連携を図ることで、一貫校としての特性を活かした教育の推進を図る。
- * 一人ひとりの生徒が持つ能力の助長を図るための授業展開を行う。
- * 鶴友会クラブならびに鶴友会諸係において、生徒の主体的な活動が実践できるようにその内容について検討する。